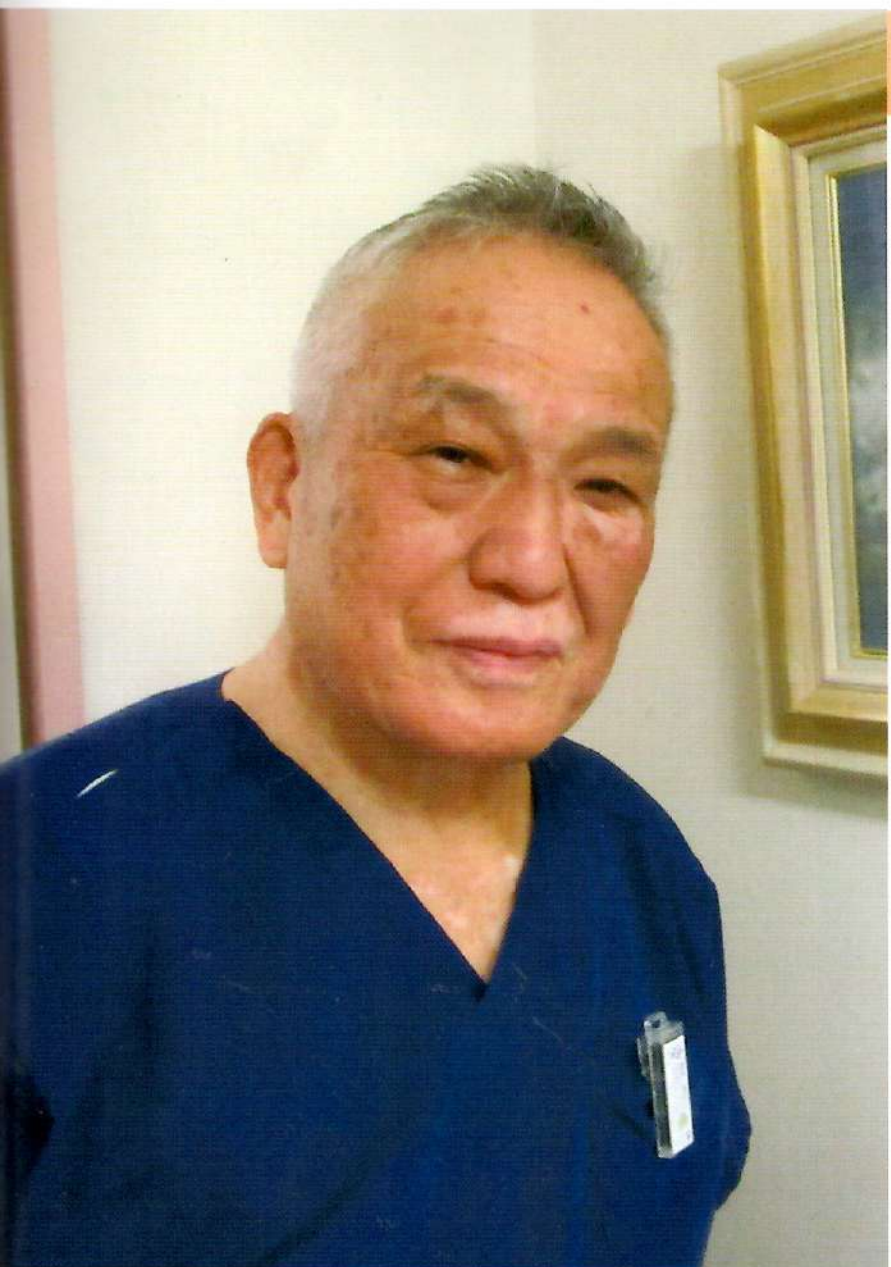


島村トータル・ケア・クリニック
島村善行院長に訊く構成／須山久里
医療ジャーナリストなるべく長生きしていただき、
当クリニックが幸せ人生の案内所となる

— 機能障害に陥った人を負担の少ない処置で改善することを得意としています



島村善行(しまむら・よしゆき)

高知県出身。昭和40年土佐高等学校卒業。昭和47年京都府立医科大学卒業、同年岡山大学第一外科入局。昭和52年国立がんセンター外科レジデンス。昭和55年国立療養所松戸病院外科医長。平成4年国立がんセンター東病院外科医長。平成5年千葉西総合病院院長。平成13年島村トータル・ケア・クリニック院長、理事長、しまむら医療介護G統括責任者。この間に消化器がん、肝胆膵外科に従事。肝臓がん治療(1600例手術)、肝動脈塞栓療法(リビオドールLp-TAE：開発関与)。厚生省体がん十力年戦略：肝臓がん主任研究員。開業以来、トータル・ケア(全人的)対応と玄米食を給食に取り入れ、生活習慣病、がん、認知症予防・治療の食事療法を实践。重症のがん・認知症対応を特色とし、がんの在宅医療と症状緩和療法を診療特長としている。

千葉県松戸市は県の北西部に位置し、人口は約50万人です。江戸時代には水戸街道の宿場町として栄え、市内にある戸定邸は幕末の水戸藩主であった徳川昭武が明治時代に暮らしていた邸宅です。江戸川を挟んで東京都に接していますので、ベッドタウンとして都内への通勤が多いことが特色です。上野東京ラインの開通で東京駅までは最短で24分で行くことができ、さらに品川まで直通で行かれるようになったので、利便性はさらに増しています。

ご紹介する「島村トータル・ケア・クリニック」は、松戸駅からバスで約10分のところにあり、クリニック名のバス停のすぐ前にあります。院長の島村善行医師はがん治療のベテランで、今まで多くのがん患者さんを診てこられました。クリニックには入院設備もあり、グループとして介護老人保健施設や訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護も運営され、まさにトータルで患者さんをケアされています。そこで今回は、島村善行院長に医療に対するお考えやがん治療などについていろいろとお話をお訊きしました。

国療松戸病院及び国立がん研究センター東病院でがん患者さんを多く治療した



クリニック外観

本誌2022年12月号の「がん治療中の栄養障害」特集に、「終末期がん患者のVHポートによる栄養管理について」と題したご寄稿をいただきましたが、がん患者さんはもとより医師を含めて大きな反響がありました。そこで取材にお伺いして、直接お話を

とがございしますが、まずは先生のご経歴からお話してください。

島村 高知県で生まれました。昭和47年に京都府立医科大学を卒業



受付

し、岡山大学外科に入局しました。そこで、人の命、生き死に係わる病気を診て、そのような患者さんを一人でも助けたいと強く思いましたので、がんの多い消化器外科を選びました。そしてがんの診療を続けていると、大学から国立がんセンターを推薦いただき、がんセンターの外科レジデントとして勤務して経験を積みました。3年間学んだ後の昭和55年に、当時の厚生省から「肝臓がんや肺がんの専門施設として予算が付いたので、国立療養所松戸病院に行つて欲しい」と頼られました。すでにがんセンターへの入職が決まっていたのですが、私は頼まれると断れない性格なので赴任することにしま



待合室

した。ここではがん患者さんをより多く診ることができ、現在は柏市に移転して、国立がん研究センター東病院へ統合されています。多くの著名人も診ましたし、海外からの研修に来られた医師も多かったです。平成4年に院長となりましたが、翌年に院長として千葉西総合病院に移りました。

そして、平成13年に独立開業することとなり、島村トータル・ケア・クリニックを開設しました。平成15年には医療法人化し理事長となり現在に至っています。

——医師になろうと思つたきっかけをお話してください。

島村 私が生まれ育つたのは高知の田舎で、農業と漁業の村でした。

商工業はほとんどなく、職業といえばバスの運転手さんか、叔父が就いていた警察官、私がときどき熱を出したときに来てくださったお医者さんでした。そこで、その中から小学校4年生の時に医師を選んだというわけです。

私は小さい頃から思い込んだら必ず実行できてきたので、なりたいたと思った医師にもなることができました。

単に病気を診るだけではなく患者さんの心と体のすべてを診る

——クリニック名にございます「トータルケア」についてご説明ください。

島村 単に病気を診るだけではなく、患者さんの心と体のすべてを診ることです。さらに、社会的には患者さんのご家族を含むケアであり、生きる意味・生きがいをもたらしケアでもあります。患者さんの生涯を見据え、幸せな人生が送れるよう医療・介護をすることです。そのため、全職員が多職種連携で患者さんや家族に関われるよう努めています。そんなケアを提供することが、私の目指すトータルケアです。

——それはすばらしいお考えだと思います。現在の医療は臓器別であり、たとえばがんであれば、その臓器のがんだけをどのよう除去するかだけを考えて、患者さんの体全体のことを考えないことが多いと言われているからです。

先生は島村グループとしてクリニック以外にも力を入れていらっしゃり、トータルケアを実践されていらっしゃると思いますが、簡単に説明いただけますか。

島村 こちらのクリニックは外来診療と併せて入院もできます。そして、別の場所になります介護老人保健施設「島村洗心苑」、グループホーム「ほたるの里」などの介護や福祉施設も運営しています。



玄米菜食中心の「ハルカフェ」

す。これにより、急性期から亜急性期、慢性期のすべてに対応できるようにしています。クリニックだけではこのようなことはできません。在宅医療やがんの末期治療も行えるような体制になっています。

また、食について重視していますので、玄米菜食中心としたカフェ&レストラン「ハルカフェ」も運営しています。

がんの末期であってもできる限り在宅で生活を続けられるように

——まさにトータルで患者さんを診ることができるとおもいます。お話にあった「ハルカフェ」



談話室にはクリスマスツリーも飾られていた

はこの上の3階にあるようですが、こちらビルについてお聞かせください。

島村 このビルは「穀物菜館ビル」と命名し、4階建てになっています。今いらっしゃる1階はクリニックで、受付、待合室、診察室、処置室、レントゲン室、内視鏡室、手術室などがあります。2階は病室で12室19床あります。他に、厨房や浴室も備えています。

3階は2020年からオープンした「看護小規模多機能型居宅介護」、略して「看多機」と、お話ししました「ハルカフェ」があります。看多機とは、施設への通いを中心とし、短期間の宿泊や自宅訪問を組み合わせることができる



「ハルカフェ」では自然食品、オーガニック食品を店頭販売もしている

施設です。要介護状態となっても可能な限り自宅で自立した日常生活を営むことができるように支援しています。ですから、がんの末期であってもできる限り在宅で生活を続けられるようにしています。

4階は、短期、中期賃貸居室のレジレンスとなっています。こちらは13部屋あり、主に末期のがん患者さんなどが入居していますが、1階がクリニックですし2階には病室もありますので、安心してご入居いただいています。

——ハルカフェをつくられた理由をお話してください。

島村 私は外科医として手術のスキルを上げることが、がん患者さんを治すのに何よりも大切だと考えていました。しかし、いくら腕を上げて完璧と思われる手術を行っても、その患者さんが再発してしまい、1年くらいで戻ってこられることに強い問題意識を感じました。そこで、たどり着いた一つが食事療法です。こちらでは玄米菜食の食事を提供して、食事の面でがん治療をサポートしています。また、このような食事は、がんを予防するにも効果をもたらしてくれます。ハルカフェでは玄米菜食に親

しんでいただくためにランチメニューを提供し、ゆったりした空間でお食事を楽しんでいただいています。また、料理教室を定期的に開催し、ご自宅でも玄米菜食が摂れるように努めているとともに、各種自然食品、オーガニック食品を店頭で販売もしています。さらに運動療法士に週2回来ていただくなどして、運動療法にも力を入れていきます。

トータルケアをベースにしてその患者さんが幸せな生活を送れるように

— それではがん治療について、先生は肝臓がんの手術を1600例以上行われていらっしゃいますが、がん治療に際しての方針からお聞かせください。

島村 方針はただ一つ、なるべく長生きしていただき、当クリニックが幸せ人生の案内所となることです。がん患者さんは認知症の患者さんと違って、頭がはっきりしているの葛藤があります。そこで、トータルケアをベースにしてその患者さんが幸せな生活を送れるように最善を尽くすことを心しています。

— どのような治療を行われていらっしゃいますか。

島村 本誌の特集にも書きましたが、がん死亡原因は感染症と機能不全です。ですからQOL

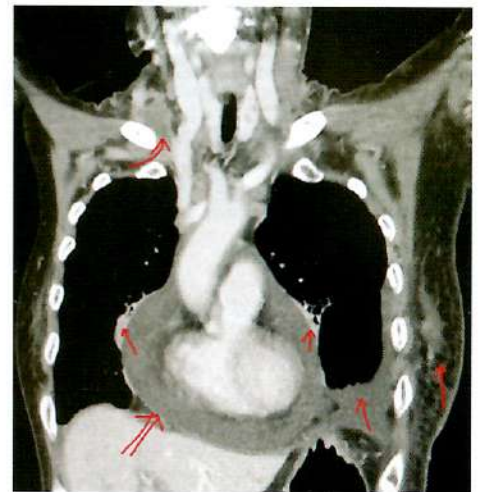


写真1

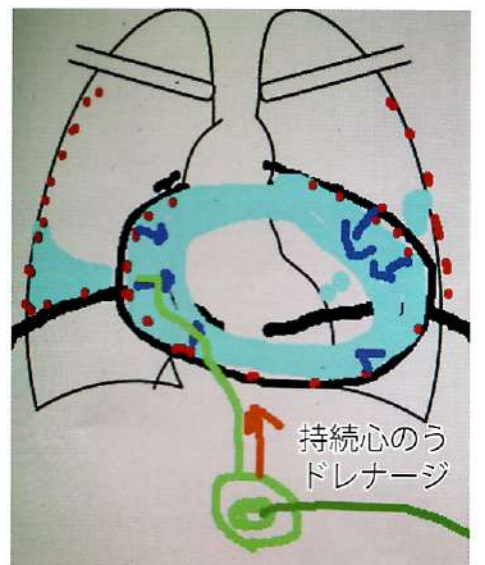


写真2

(生活の質)を高めておかないといけません。たとえば、腸閉塞を起こすと通過障害となりますが、ステントを挿入して通過できるようにします。通過できなくて点滴だけで栄養を摂ると、普通に食事ができるのではQOLはまったく違います。当院では、肺、食道、胆道のステントなど、どこの臓器でもステントの挿入が可能です。

このように、機能障害に陥った人を負担の少ない処置で改善することを得意としています。臓器別の診療の弊害からか、他院ではほとんどそのようなことを行いません。私はその患者さんをまるごと診ることを心掛け、少しでもQOLを上げることができるよう全力を尽くしています。また、都内やその近郊には、が

んの先進治療をクリニックレベルで行っている施設がありますが、その患者さんで全身管理が必要な患者さんもいらっしゃいます。こちらは19床の有床診療所になりますので、入院していただいても全身管理ができますので、そのような患者さんも医師の紹介で来られます。

— 具体的な症例をお話してください。
島村 74才の女性は原発不明がんでしたが腹膜がんを疑いました(写真1・2)。すでに全身転移していて、胸内苦悶や呼吸苦、倦怠感、疼痛に加えて摂食障害がありました。土曜日に緊急来院されたので、当日IVHポート造設して血管を確保しました。これは栄養改善が目的です。同時に、左持続

胸水ドレナージも行い溜まっていた胸水を抜きました。そして、入院していただきましたが、翌日には症状がやや改善し心肺機能検査を行い、右胸水ドレナージを行いました。また、心臓の働きを良くする治療として、持続心のうドレナージも行いました。

この患者さんは、がんの広がりが広範で症状も強いものでした。その症状を緩和させるには、画像診断と自覚症状、全身の衰弱度、生きる希望の獲得法は何か、それらを感じ取ることから始まります。もうお一人、65才の男性で臍体尾部がんの方は、複数の主要病院で考えられる治療法は完結してしまっていました(写真3・4)。腸の通過障害によりQOLが著しく低下していましたが、大腸ステ

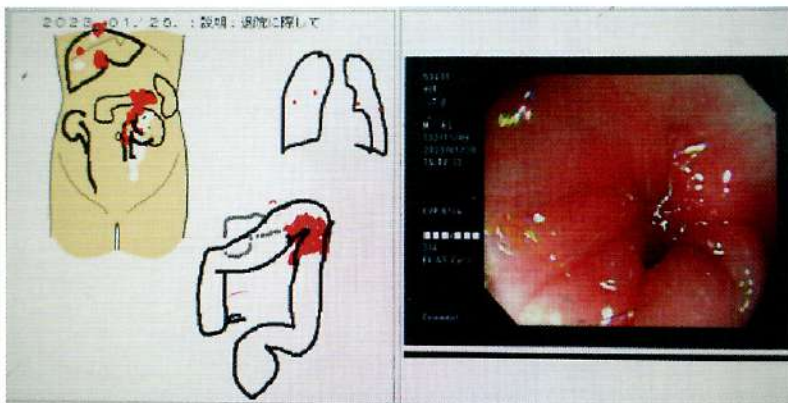


写真3

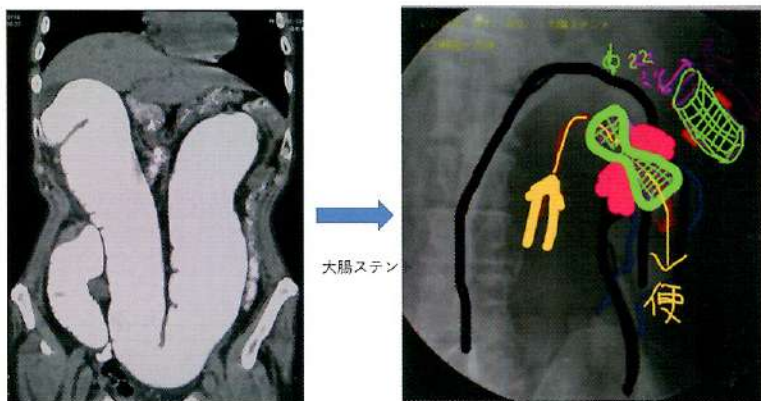


写真4

ント治療により通過障害が解消し、症状が大きく緩和できた患者さんもいらつしやいます。

何をどのような順番で対処するのが最良であるかを決めて、患者さんに説明し、予後予測をして同意を得ます。さらに治療後は、ご家族構成によってどのような生活環境を提供したら良いか診療計画を提示しています。

大切なことは、初診時に信頼関係を得ることだと思っています。治療後に、治療前にお話したこと

と合致していて、状態緩和が少しでもあれば信頼感が強まります。がん終末期の多くの患者さんは、

摂食障害がありますので、IVHポートの処置により半日で生気がみなぎり喜ばれることが多いです。

漢方は重視していますので漢方外来を設けています

——QOLを重視した患者さん本位の治療だと感じました。患者さん本位といえば、自由診療による治療も選択肢としてあってもよ

いのではないと思いますが、自由診療は行われていないのでしょうか。

島村 以前は本誌に連載もされていた水上治先生に教えていただきたい、高濃度ビタミンC点滴療法も行っていたのですが、混合診療になるので残念ですが止めています。治療の選択肢を狭めてしましますが、国の決めていることですので仕方ありません。

そこで、保険診療内で行える漢方をよく使います。免疫をあげることを目的に、補中益気湯や人參養榮湯、六君子湯などかなりの漢方を処方しています。漢方は重視していますので漢方外来を設けており、大学のセンター長に来ていただいています。

——貴重なお話をありがとうございます。先生のとータルケアの今後に期待しています。

それでは、最後にがん患者さんにメッセージをお願いします。

島村 人は死から逃れることはできません。だから「死ぬかも知れない」でなく、誰でも必ず死にまします。しかし、生きている限りは生きています。がんで生きる日数が短いと思ったら、100倍価値を持つた時間を過ごしましょう。生きがいはいは長命に繋がります。私た

ちはQOLの向上に全力を尽くします。症状を緩和させて、精一杯心地よい環境をつくりましますので、ご一緒に価値のある時間を過ごしましょう。永遠の健康長寿を願う「固体保存の本能」から、自分の遺伝子を次世代に託す、「遺伝子保存の本能」に目覚めたものです。

患者さんからの「ご質問」を募集

本誌編集部では、患者さんからのご質問・ご相談を募集しています。闘病に関するお悩み、ご質問があれば、封書、ハガキ、またはFAXにて下記宛にお送りください。

ご質問・ご相談の送付先
〒220-0041 横浜市西区戸部本町45-4 傑クリピュア『統合医療でがんを克つ』編集部宛

●島村とータル・ケア・クリニック

〒270-2241
千葉県松戸市松戸新田21-2
TEL: 047-308-5546
<http://stcc.jp/>